

アマチュア野球の殿堂だった

中島球場

昭和五十五年まで、アマチュアスポーツの殿堂として少年野球や社会人野球などに利用されていた中島球場について紹介します。

今では、中島公園内に野球場があったことを知っている人も少ないのではないだろうか。

中島球場は、大正七年（一九一八年）に開催された開道五十年記念北海道博覧会の跡地利用として、現在の北海道立文学館（中島公園一）の辺りにありました。

当時の球場は、整地をしてバックネットを張っただけの簡単なもので、石ころだらけでスタンドもありませんでした。

昭和三年八月に、中島球場で開かれた北海道権太少年野球大会では、札幌放送局（NHK）がスポーツ放送第一号として実況放送しています。

九年に収容人員三万五千人の円山球場が出来てからは、プロ野球などは円山球場で、少年野球や実

業団野球は中島球場で行われるようになりました。

二十四年には札幌市

創建八十周年記念事業

として大改

装され、両翼九十四

メートル

・センター

百一十一メートル・収容人員二万人の球場となり、アマチュア球界のメッカとなりました。しかし、老朽化が進んだことと、外野のスタンドが狭く球が球場から飛び出したりして危ないことから、五十五年に取り壊されました。

運動ができる公園として親しまれてきた中島公園も都市公園へと変化してきています。



昭和55年当時の中島球場
(札幌市写真ライブラリー所蔵)